

(見出し)

5 創業の競争力向上急務  
法と制度のイノベーション推進

10 「寿命を全うする直前まで国民が健康に暮らせる世界最初の独立国家になろう」という宣言を2013年に出しました。人生半ばで癌を患っても、失明しても回復できるように、世界各地でヘルスケア研究開発の事業化を主導する**DHCTを組成**。米ボストンの

15 拠点は、1日6000人のPCR検査ができるシステムを3月に完成させました。米食品医薬品局(FDA)の緊急使用認可を取得して活躍中です。

20 西海岸の拠点は10月にPCRや抗体検査と異なる最新技術で感染症を正確に検査できる携帯装置を完成させます。唾液による診断が可能で、所要時間は20分弱程度。コロナの判別が毎日可能になり、経済・安全の両立を実現できます。様々な病気を自宅で検査し、インターネットを経由して結果を医師に送ることで遠隔診断の現実味が増すと同時に、全体の費用は大幅に下がり、

30 診療報酬の引き上げと患者負担の軽減が同時にできるようになります。

35 我が国の創業国際競争力を高めるための**制度イノベーション**も進めます。例えば、遺伝子治療で二重基準となっている法律と指針を統合し、副作用が少なく、あらゆる癌に効果が期待できるウイルス療法や、WT1免疫療法などを本承認とする実例を作るべきです。カルタヘナ法から医薬品開発を除外することで開発期間も開発費用も大幅に軽減できるので、先端治療を患者に安価で届けられるようになります。

40 コロナウイルス対策では高抗体価を持つ回復者血漿治療で死者を大幅に減らせます。ワクチン開発と違い制度改革さえすれば、今すぐにも可能で確実な療法です。14年に実現した「条件・期限付早期承認制度」の適用を拡大し、新薬や治療法を次々と創出できるようにしなければなりません。毎年

50 11月、日本政府と**国連経済社会理事会の特別協議資格を持つアライアンス・フォーラム米合衆国公益財団**が技術と制度の新しい流れを発表する**WAFSF**を逃してはならないでしょう。

55 (DHCT、アライアンスフォーラムとWAFSFは、太字)